

かたち

藤岡芽生

指さす一点からも

ひとはあいまいで だけど

ふいな呼吸から

世界はかたちづく

ゆるい水着が濡れはじめ

境界を見誤ってゆくように

あるいは

満ちた製氷皿の一角にはしる

たしかな決意の亀裂のように

とけこむ ことや

ぶんり ということがら

水面にある一点の自我
が

だれのくしゃみによってか 移ろう

そのときに、いったい

どちらのことがらが起きたのですか と尋ね

一面にこだまし

たったかたー とだけ

返った

明るいサンルーム

プランターがひっくり返り

水びたしで

床は輪郭を失い

歓声をあげて走るこどもの

はだしからいま 生まれはじめ

一点の自我、

一点のあかり。

満ち満ちる半濁音のよろこびや

また だれかのくしゃみの先

に

洗濯バサミにはさまれ そよぐしつもん。

今

せかいにさざなみが立ち

ふたたび境界をなくすものたち

あ、でも

これはいつもあった

ほら

乾いていく水着

一面のこだま